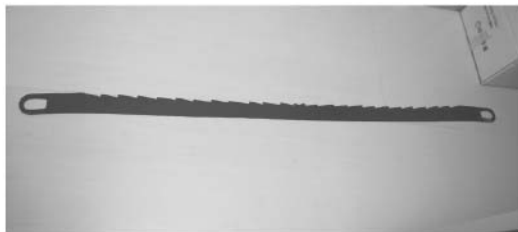


## 民俗－５ オガ



オガは、木挽きが木材を縦に挽いて板にするのに用いた薄い带状をした長い鋸です。全国でわずか6丁しか残っていません。刃は大きく、刃長に比して刃数が少ないといった特徴がありますが、興味深いのは歯列です。歯の中央で歯の向きが逆の方向を向いており、両端部に曳き柄を通す穴があります。これは、両端部を二人で持って交互にひくためです。求めに応じて、地元の鍛冶屋により製作された一方、明治中期から一大産地となった近江甲賀の前挽鋸も多く普及しました。鋸身の形は細長いものから幅広いものまであり一定しませんが、大きな材の場合は、鋸身がついたり、両側から二人挽きするなどの工夫が見られました。幅広い木挽鋸や動力を用いた帯鋸による製材法が導入される以前に使用された山樵用具です。